

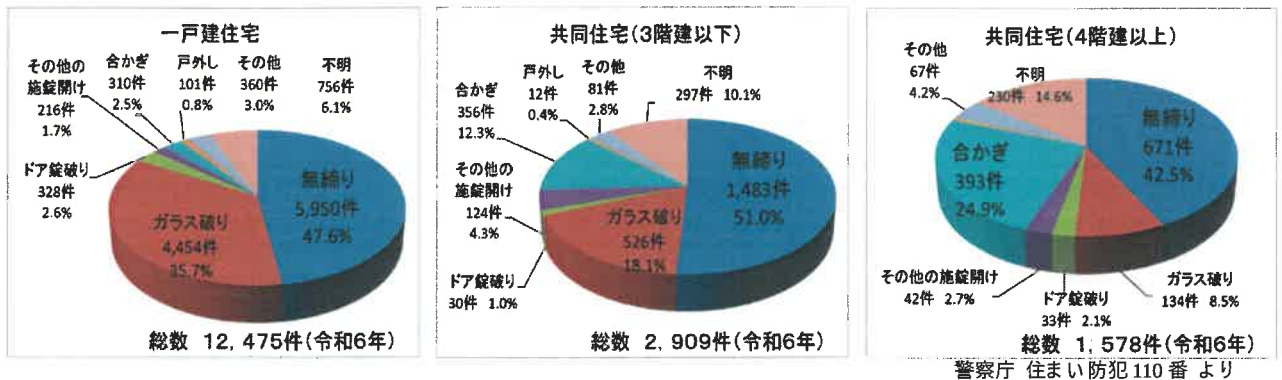
防犯カメラでは止まらない！“無敵のトクリュウ強盗” いかに侵入を防ぐかがカギ

今年も9月に入り、季節もようやく秋...のはずですが、日中暑さは一向に収まる気配がありません。

国内問題に目を向けると、トランプ関税や国内政治問題などですっかり鳴りを潜めてしまった感のある、いわゆるトクリュウ犯罪ですが、花野井、大室地区でも初夏に強盗に入られたお宅があり、就寝中にライトで顔を照らされ、寝ているか確認されたといった報告が柏警察にあったそうです。

事件当日このお宅は1階の窓を施錠しておらず、網戸のみを閉めていたため、犯人に容易に侵入を許してしまったとのことでした。

ではまず何をすれば強盗に入られにくくなるのでしょうか。



上のグラフは、昨年の戸建て、共同住宅への空き巣及び強盗の侵入手段の統計です。全体の約半数が、無締り(無施錠)であり、次にガラスを割っての侵入となり、低層住宅ではこの2パターンでの犯罪で大半が占められているのがわかります。

従って就寝時などは、まず戸締りを必ず行うということになります。とはいえ、まだ日中はエアコン稼働の日々ですが、夜半や明け方には気温も下がり涼しいので窓を開け、網戸のみを閉めている場合もあるかと思えます。そのまま戸締りを忘れての就寝はもってのほかですが、今回の表題にもあるように、ガラスを破って侵入してきた場合はどうするかを考えてみたいと思います。

結論から言いますと、ガラスを破られてしまっただけではほぼ手の打ちようがないのが現状です。警備会社の警報装置が備わっていても、警備員の到着までには数分かかります。(道路状況によっても変わりますが、概ね5分～15分といわれます。)

また、防犯カメラに至っては眼出し帽などで顔を覆われてしまえば犯人特定が容易ではない点、特にトクリュウ強盗に至っては、裁判時だけ反省したふりをするだけなので、刑期が終わり社会に復帰すると犯行を繰り返す人が多いそうです。また、奪った金品は逮捕までに隠せばいいので、顔が映っていてもお構いなしということです。



防犯合わせガラス(右)と網入りガラスをハンマーで殴防した実験(旭化成ホームズ提供) 東京新聞より 抜粋

このような観点から、いかにガラスを破られないかが重要となります。一般的には犯行が成立する前に通報されることを極端に嫌うため、敷地に侵入してから、ガラスを破って侵入するまでに5分以上かかりそうな場合、ほぼ撤収するといわれています。(侵入できない場合、逃走する時間などもあるので実際のドア破りの時間は3分ほどのようです。)

右上写真でもあるように、防犯合わせガラス、防犯フィルムや2重施錠といった対策をとり、侵入される時間を1分でも遅らせ、退散させることで未遂事件にできるよう意識していただけたら幸いです。

「柏ビレジ 防犯部」